

景況レポート

(8月分・情報連絡員60名)

DI値は製造業が悪化、非製造業が上昇

【概況(全体)】

8月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.0%(前回調査6.7%)、「悪化」が65.0%(同68.3%)で、業界全体のDI値は-60.0となり、前月調査との比較では1.6ポイント上回った。

本県の景況DI値は、全国に比べて上回ったが、東北・北海道ブロックに比べて下回っており、上向き幅も小さい結果となった。

【業界別の状況】

新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、業種によって景況判断が分かれる結果となった。

各地の夏祭りが中止となったことに加え、お盆の帰省を自粛する動きが広がり、観光客や帰省客を相手としている業種にとってはかつてなく厳しい8月となった。

また、中旬以降の猛暑の影響が各業種に見られ、エアコン需要の高まりを受けた電気工事業を中心に景況感が回復し、わずかながら全体景況DI値を押し上げた。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-60.0	-65.2	-53.5
製造業	-75.0	-71.8	-59.2
非製造業	-50.0	-60.2	-50.2

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】



【天気図の見方】

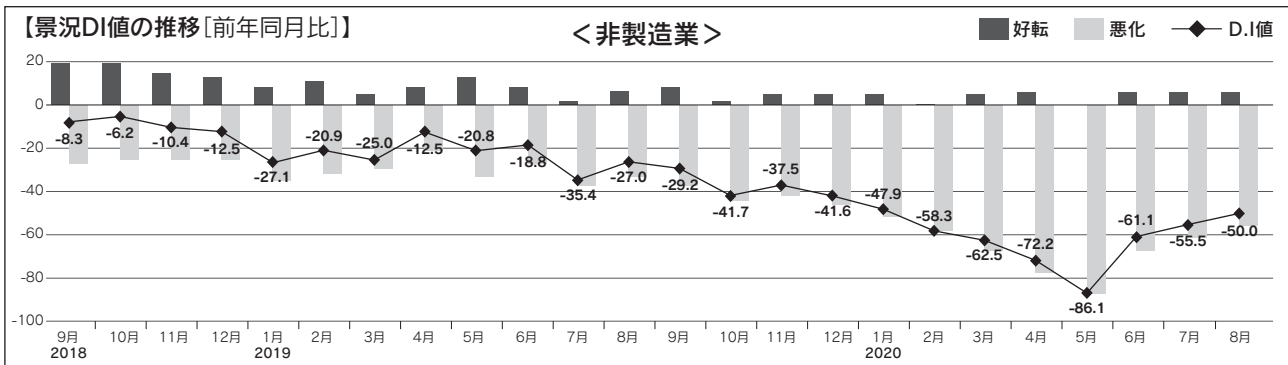
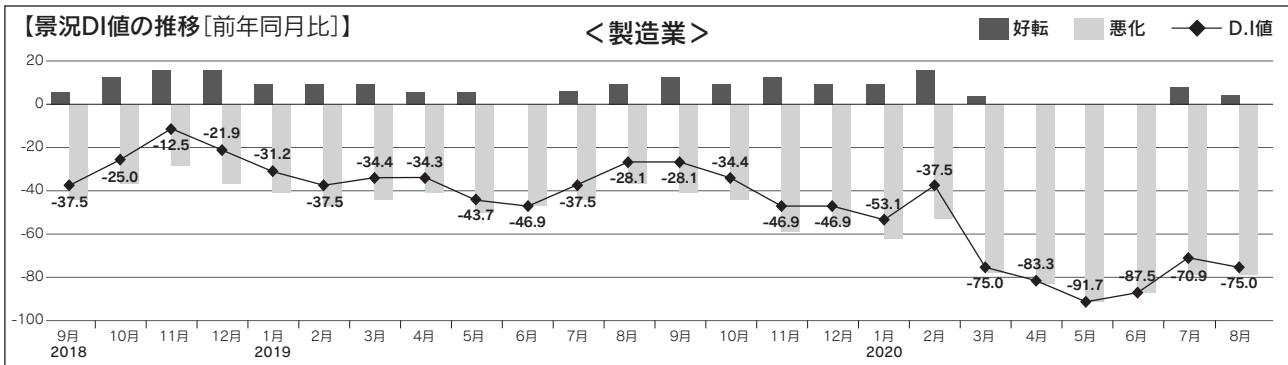
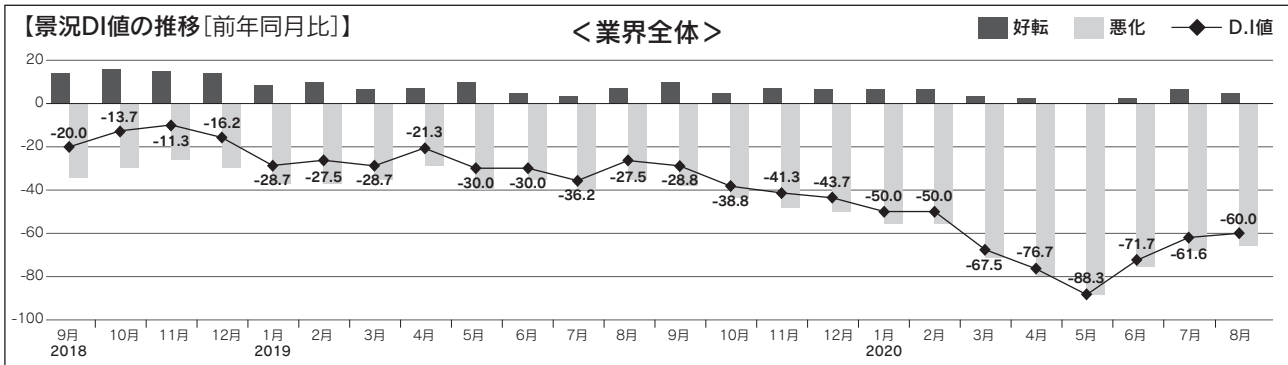
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食料品 (パン)	新型コロナウイルス感染症の影響により、コンビニにおける菓子パン等の売上が減少しており、前年同月比でマイナスの状況が続いていることに加え、8月中旬以降の猛暑により、売上が急激に悪化している。学校給食は夏休みの短縮で登校日数が増えたため、プラスになっている。
食料品 (菓子)	8月はお盆や夏祭りシーズンで人の動きがある時期だが、新型コロナウイルス感染症の影響により、駅・空港・観光地に納品している企業を中心に引き続き売上の減少が続いている。
繊維工業 (繊維)	2020年秋冬物受注は60%となり、受注減少分は医療用ガウンで補っている。2021年春夏物受注の見通しは50%であり、来年3月以降は全く予測できない状況である。(中央地区)
木材・木製品 (外材)	例年は盆明けから価格上昇の機運が見られるものの、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、先行き不安から住宅建設を検討していた人が二の足を踏む傾向が強く、7月の全国住宅着工戸数が前年同月比で1割弱落ち込み、13カ月連続の減少で推移しており、木材需要の不透明感が続いている。こうした中、国産針葉樹合板は3月下旬に相次いで減産を表明し、荷動きも停滞感が続いている。8月は、13カ月連続で外材原木の入港はなかった。スギ原木については景況の悪化により製材用原木の値下がり傾向が続いていて、原木価格を下支えしてきた合板用原木についても、合板メーカーの減産が続いており、在庫量は減少しつつあるものの、引き続き厳しい展開が予想される。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	8月の出荷数量は前年同月比112.8%である。4月～8月累計では99.0%となっている。要因として、中央地区の市立病院建設工事等、徐々に数量が出てきている。県南地区は、稲刈り後に農政関連工事が発注される見通しである。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	新型コロナウイルス感染症の影響が依然として続いており、新規見積物件も少なく、各社とも稼働率が大幅下がっている状況が続いている。例年であれば、年末にかけての工事売上が期待されるところだが、今年は先行きが全く予想できず、今まで以上に厳しい経営が続くことが懸念される。
一般機器 (金属加工)	依然として受注が戻っておらず、組合員の中で一時帰休、退職者を募るところまできており、厳しい状況にある。資金繰りも厳しく、借入金が増加している。
その他の製造業 (漆器)	お盆の帰省シーズンに毎年開催している蔵出し市が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、集客も例年より60%程度減少した。売上については20%の減少にとどまった。湯沢市観光物産協会による宿泊者への市特産品プレゼント企画で、川連漆器を提供することとなり、この先6ヶ月間の売上につながった。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比105.1%で推移した。8月は前月までの天候不順から一転して、主力産地の東北地方は高温・少雨状況となり、青果物全般に出荷量が減少し、価格の高騰を招いた。その影響から結果的に売上高は前年を上回ったものの、利益幅は薄く、売上に利益が追いつかない状況となった。お盆需要も期待したほどではなかった。
小売業 (みやげ品)	本来8月は、夏祭り、竿燈、大曲の花火、西馬音内盆踊り、お盆の帰省客等、1年で一番売上実績の高い月だが、今年はお祭り・イベント等が全くないため、前年同月比22%の実績であった。
小売業 (花卉)	新型コロナウイルス感染症の影響で帰省できなかった人が、実家にお花を贈るなど、花キューピット等の需要が例年より多くなったことで、葬儀関係などのマイナス面をカバーできた。だが、依然として葬儀・プライダル関連は大きく落ち込んでいる。
商店街	食料品販売と身の回り品は前年同月並み、家電販売と酒類販売及び生花販売は前年同月比で減少している。(秋田市) 首都圏等との往来自粛や帰省の自粛等があったが、地元消費は少しずつ回復してきていると感じる。まちカフェのオープンや空き店舗への入居があり、他も家賃の引き下げでテナント誘引の努力をしており、新規出店意欲が若干みられる。(湯沢市)
サービス業 (旅行)	国内10.2%、海外0%となっている。国内は、県プレミアム宿泊券とGo Toトラベルの取り扱いである。Go Toトラベルは、個人での還付は複雑なので、簡素な旅行業者経由での申し込みをいかに浸透していくかが今後のカギである。
サービス業 (タクシー)	外出自粛ムードも和らぎ、回復への動きがあったが、8月に発生した企業の運動部による新型コロナウイルス感染症患者のクラスターが、秋田駅前周辺と繁華街での回復にブレーキをかけた。前年比50%近い落ち込みになっているものの、地域によっては日中の需要に大きな落ち込みがない。
建設業 (電気工事)	新型コロナウイルス感染症の影響で、特に新築物件は少なかった。盆明けから下旬の好天による蒸し暑さで、エアコンの受注工事はさらに多忙を極めている。(中央地区)
運輸業 (トラック)	お盆前に多少回復の兆しがあったものの、お盆休み明けには貨物量が減少し、売上、収益ともに減少傾向で、前年同月比で減少している。例年の荷動きではないが、春先に比べて順調に推移しているとみられる。燃料価格は値上がりし、今後も値上げ見込みとなっている。(県南地区)